会 議 録

◇事務局 子ども家庭部子ども若者課 電話：03(4566)2471

附属機関又は 会議体の名称	第4期第5回豊島区子どもの権利委員会	
事務局（担当課）	子ども家庭部子ども若者課	
開 催 日 時	令和7年1月10日（金）午前10時00分～12時00分	
開 催 場 所	区役所本庁舎9階 第2委員会室	
議 題	1. 開会 2. 議事 (1) 子どもの権利保障に関する施策の調査の再評価 (2) 答申案・計画素案スケジュールについて 3. 報告 (1) 豊島区子ども・若者総合計画（令和7年～11年度）素案について パブリックコメントの実施について (2) 新たな計画の「子ども版」の作成・アンケート集計について (3) 区立西池袋中学校のぶちあげ花火大会について 4. 閉会	
公開の 可否	会 議	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 傍聴人数 0人
	会 議 録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
出席者	委 員	森田 明美、内田 塔子、高田 慶子、佐藤 妙子、比金 敏彦、八尋 崇、飯塚 昇、上野 大典、北條 直子、大伍 将史
	関係理事者	子ども家庭部長、児童相談所長、教育部長、子ども若者課長、子育て支援課長、児童相談課長、子ども家庭支援センター長（代理）、保育課長、庶務課長、指導課長、教育センター所長
	事務局	子ども若者課長、子ども若者課

提出された 資料等	資料1-1	子どもの権利に関する施策の調査の再評価
	資料1-2	再評価部抜粋新旧対照表
	資料2	答申案・計画素案スケジュールについて
	資料3	豊島区子ども・若者総合計画（令和7年～11年）素案第3章
	資料4	パブリックコメントの実施について
	資料5-1	新たな計画の「子ども版」の作成について
	資料5-2	子ども版のアンケート実施について
	参考資料1	権利委員会委員の皆様からいただいたご意見

審 議 経 過

1. 開会

2. 議事

(1) 子どもの権利保障に関する施策の調査の再評価

会長：各部署から再評価を出していただきましたが、再評価には取組みの書き方と、取組みの内容といった、2通りの意味があると思います。本委員会では各部署から出てきた報告について、子どもの権利の視点から、報告の仕方と報告の内容に関する精査の問題と、報告された方向性や内容に関する問題とを検討し、集約することになるかと思いますが、再評価に対してのご意見はいかがでしょうか。

委員：率直な感想として、当初評価と比べてみると、再評価は具体的に書かれています。どういう取組をしてその結果どういう状況になったかがわかるので、良いと思います。

委員：私も当初評価に比べて具体性があり良くなったと思いました。良くなったからこそさらに気になる点もあり、やっぱり子どもの権利の視点というところでいくと、評価から子どもの意見を聞いているかどうかかわからないものについては少し懸念を感じます。たとえば No.11 の中高生センターの運営では月一度の利用者会議で中高生の意見が聞かれていることがわかりますが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーのところでは大人の視点で書かれているなど感じます。子どもの意見を聞いていないのであればそう書いてもらえればよくて、今後毎年毎年、大人の視点で行われているということが繰り返されないようにと思います。子どもの意見を聞くことが今回はできなかつたけれども、分かっていること。次年度には子どもの意見を直接聞いて、その意見を反映していこうと思っているということがわかるような書き方があればいいのですが。具体的には No. 36 の（5）で「相談者の不安や困り事を相談対応者が一緒に整理出来たことで解決方法を習得し、気持ちを切替えられるようになっていきます。」とありますが、これは大人からの見立てであり、（6）での「保護者から『子どもが気持ちを話せる場があり安心できる。』との意見がありました。」は親の意見ですので、子ども自身の意見が聞かれているのが不十分だと感じます。

委員：施設の利用アンケートなどでは子どもは意見を言いやすいのですが、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーといった身近にいる人が意見を聞くと、親や担任の先生に話せないことが出てくるかもしれません。子どもの意見を集約する窓口の一つとしてあると良いと思います。

委員：スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの部分については、確かに大人目線で書いてありますが、彼らは、子ども達の声にならない声、声に出せないことを引き出して子どもの意見として吸い上げているので、どうしてもこのような表記になってしまうのですね。なので、これは書き方や表現の仕方の問題ということでもあります。工夫によって改善できることもと思います。

委員：はい。あくまでも事業の評価として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが子どもにとって利用しやすいのかという点について子どもの意見が聞かれているのかどうかを確認できればということです。

会長：場の設定、時間帯、その人の固有な問題について子ども達にとって適切な整備がされているのかと

いった、多様な視点から私たちは評価をしないとけません。制度があって、それを実際に子ども達が使っているのか、使えているとしても適切な支援になっているのか。例えば No.40 の児童相談所の設置・運営のところでは子ども会議を月に 2 回行っているとありますが、この会議が具体的にどのような形で子どもの安全安心を担保しながら行われているのか。そして、これが本当に子ども達にとって価値あるアドボケイトなのか、意見表明の場になっているのかといったことの評価はなかなかできないと思います。つまりは、何が求められているのかということと、それができていないとすれば今後どう取り組んでいくのかということの認識を記載していただきここで共有、点検することで子どもの権利委員会としての役割を果たしていくことができるのだと思います。

委員：内容と少し離れますが、今回再評価として出てきているのは、本委員会からの意見を受けて再度検討されて出てきたものかと思しますので、全ての事業から出ているのではないですね。再評価で出た事業だけが、当初評価よりも記載の分量が増えて膨らんでいて、見たときの違和感があります。

会長：対応する時間があつたかどうかの問題等もあるかと思うのですが、私達からの現場への出し方の問題もあつたのだらうと思います。これは私達の課題として考えないといけないことかと思ひます。

委員：本来は課題なども書き込まれるべきで、もっと分量が増えて良いところだと思ひています。やはり、ただ意見を聞いただけで終わってしまうことって非常に多いので、せつかく意見を聞くのならば、どのようなことを聞いて、どのように反映されて何がどのように改善されたのか、また積み残した課題は何なのか。それをやはり書くべきではないかなというふうに思ひます。ここが一番、子どもの権利の視点で施策を見渡して、私たちの目から見てチェックするというとても大事なところなので、今私たちから意見を言わないと、なかなか反映出来ないんじゃないかと思ひました。

委員：再評価の中で、子どもの意見を聞いたとか、月に何回会議を開いたとかありますが、それ自体が子どもにとって十分に足りていたのかどうかという点が抜けていると感じました。例えばスクールソーシャルワーカーは常駐でなく週一回などの巡回ですから、その一回だけで問題を抱えるすべての子どもに対応できないのではないかと思うのです。子ども達にとつても、週に一回という回数に対する不安や、回数が増えることへの希望があると思ひます。なので、子ども達の悩みや声を聞いたということだけでなく、こういう聞き方でよかつたのかどうか、というところまで聞かないと、行政やこの権利委員会が作っていく仕組みをこれからどう改善していくかということに結びつかないと思うのです。スクールソーシャルワーカーの巡回数が足りないよという子どもの声があれば増やしたり常駐にしたりするなどの改善の検討が必要でしょうし、児童相談所の会議も運営に携わる側が開いているものであつて、回数や実施方法について子どもが意見を言つてもいいんだよと子どもに気づかせることが大事です。

会長：現状の各部署からの数行の報告から、具体的な中身がわからないと子ども達の権利侵害に繋がることでもし想定されるのなら、この委員会がどこまでの権限を持って検討できるのか、組織の問題でもあると思ひます。行政手続としてどのようなことができるのか検討する可能性も出てきます。豊島区が目指すところに高められるよう具体的に実施していくためにも、各部署との信頼関係を築きながらやっていくということも大きな課題だと思ひます。

委員：各所管に、事前にこちらから子どもの権利の視点から聞きたいことを提示することはできないでしょ

うか。例えば先程のスクールソーシャルワーカーに関する事業であれば、訪問回数は子どもにとって足りていますかなど、具体例をいくつか出して、それについては最低限書いていただくということで、やり取りの回数も減らせると思います。

子ども家庭部長：今回の評価で調査項目が3項目ありますが、このような項目でどうでしょうかということ、以前の第2回の本委員会で素案をいったん検討いただいた経緯がありました。この調査項目は共通の調査事項なので、委員がおっしゃるような個別の質問にする視点はなっておりませんでした。今後の調査で導入を考えたいと思います。よろしくお願いします。

会長：300以上ある事業数に対し、この委員会から個別に質問を出すことについては、何をどういう順序でやっていくのかをまずはテーマにして、次年度に向けての本委員会の検討課題として掲げていくとか、いろいろな方法があると思います。そして、本委員会も、子どもの権利の評価検証を担う存在なのか、評価されるべき対象であると思っています。

今回のまとめ方については、3項目に対しての不足分について再調査をした、そしてその再調査の結果、ある意味凸凹した報告になってしまう。しかし、これが私たちがやってきたところの一つの到達点であるとしてそれをリアルにきちんと出していく。それをきちんと本委員会の課題として踏まえ、この組織の在り方と評価の仕方をどういうふうにしていくのかと整理をしていくという形でいいか、それともやはりもうもう1回、全部検証するかという話になってしまうと思いますが、いかがでしょうか。

委員：凸凹が一つの到達点ということについては同じように思いました。報告を出すために考えるのではなく、いろいろな意見が出て優先順位をつけた結果、記載量が少なくなったということもあったのかなとも思います。

委員：記載する人の持つ視点によっても評価の仕方が変わってくるがあると思います。物事が分かっているからもっとこうしたいほうがいいというものが見える場合と、その人の価値観としてかなり満足であれば100%の評価を出す場合があります。今現在での評価という形で見ると、書かれていることは正しいことなのだと思います。次年度での発展を期待したいことがあってその人が気づいていけば次につながっていくと思いますが、もしそうでない場合にはやはり、誰かが助言をしてあげたりとか、もっと違う視点でのお話しをして、次へのステップに続いて行っていただくというのもよいかと思います。

委員：私も、ある程度課題を書いてもらって、それをもとに議論していくのが重要な思いました。立場により優先順位が変わるのはどうしてもあり、例えば自分ならば子育てをしているので、個人的に大事な課題は子育て訪問相談事業になります。数か月に何回か担当者の方が来て話をします。10時から12時などでの時間帯指定があるのですが、自分の側から見れば時間の幅がかなりとられ、その日の予定が立てられないといったこともあるということで課題だと思っているのですが、これがもう少し子どもが大きくなったときには児童相談所の事業が身近になるでしょう。自分と関連性が薄い事業については実態が見えてこないように感じる場所があるので、それぞれの課から課題を出してもらって、本委員会で公平な観点から、何を重点的に今の時期に取り組むべきかを担当課と一緒に取り組んでいければいいかなというふうに思いました。

事務局：再評価実施は現状ですと難しいので、報告でお知らせする形で実施させていただきたいと思います。

委員：そもそも、この委員会として、子どもの権利の視点、各委員の専門性といった視点からどういう点を評価してほしいかということ伝えるべきところ、伝えられないままに再評価を依頼していました。本当に手探り、試行錯誤でやっているのもこれもひとつのプロセスだとは思いますが、今回で私達がすべきことが明確になりました。行政との向き合い方としてもそのほうが良いように思いました。

会長：本委員会の今年度のまとめとしては、子どもの権利の視点から三つの項目を出して回答を求めたこと、その回答に対してのキャッチボールの第1弾として再評価を依頼してみたら、加筆して出してくれるところがかかなりあったこと。さらに、記載方法もしくは記載内容で今後の課題をきちんと捉えていることがわかる書き方をしているかどうかにも評価していかなければならないということ。だとすると、本委員会の委員の専門性の視点から、回答を求める前の段階で質問をすることなども、私たちの課題としてあること、これが私たち子どもの権利委員会の具体像を認識できたということで、進めさせていただきたいと思えます。

(2) 答申案・計画素案スケジュールについて

会長：この件について、ご意見、ご質問等がございましたら、お願いいたします。

(異議なし)

3. 報告

(1) 豊島区子ども・若者総合計画（令和7年～11年度）素案について パブリックコメントの実施について

会長：この街で子どもを産み育てたいという人が増えてくるということは、当然、子ども若者に関する施策が量的に不足してくるということになってくるわけですね。今までだったら対象者が少なかったのがこれから増えてくるわけですから、そういう意味でいうとその量的な見直しというのは、場の見直しであったり人手の見直しであったり、あるいは様々な事業の見直しということがとても重要になってきます。この計画の中でいうと、これらの点がどういうふうに位置づけられて、その取組の方向性どのように書かれているのでしょうか。小学校や中学校は、数が増えたり減ったりというようなことがリアルに出てきますよね。保育園も増えたり減ったりっていうようなこととか、あるいは区民ひろば事業がすごく変わったりっていうようなこともあると思うので、量的な問題はどのように考えてらっしゃるのか、ここの13事業の検証はしませんので、少し補足していただけますか。

子ども家庭部長：はい。この子どもの権利の検討委員会については今回で一応仕切りということになります。数的な問題についても、子ども・子育て会議の中で増減を想定したものを出す予定です。皆様には、3月に開催する合同会議で、来年度どういったことをやるのかとか、将来的にこれぐらい増えるあるいは減ることを想定していますといった数の問題についても網羅的にご説明させていただきたいと思えます。

会長：人口の増減に対する対応はあるのですよね？

部長：はい。子ども・子育て会議の枠組みの中で将来推計を出し、それに合わせて施策を行っていくということになっております、5年ごとに将来推計を出して予算をつけるということをやっております。今年度そ

の推計を出して、来年度に向けて予算をつけます。

会長：子どもの権利ということで考えると、学校教育はとても大きな課題ですが、この13事業には放課後子ども教室事業以外が入っていないので、こういった学校のところなんかもぜひご報告いただけると全体としてよく見えてくると思いますので、3月の会議の際にはぜひお願いしたいと思います。

子ども家庭部長：承知しました。今年度、教育委員会のほうで様々な計画をまとめていますので、それも可能な限りご紹介させていただいて予算だとか、将来の数だとかもあわせて説明をさせていただければと思います。

(2) 新たな計画の「子ども版」の作成・アンケート集計について

会長：新たに子ども版というのが計画の中で出来ましたが、子ども達からのパブリックコメントというのは取っているのですか。

事務局：はい。区立の小中学校にアンケートを実施しましたので、続けてご説明いたします。

会長：学校では子ども達から話は出ていましたでしょうか。

委員：実施は把握しております。全校生徒の前で子どもの権利の話をしたときの反応が興味深いもので、後でちょっと意見を聞いたら、自分たちはまだ権利と言えるほど、自分たちの思いを伝えてないんじゃないかっていうのを子ども達は感じているようです。だから見た目の反応は薄いです。一方、反応が大きかったのは教職員のほうでした。教職員からは、課題として認識していなかったとか、自分たちがしっかりやっていないと子どもには伝わっていかないというような意見は出ていました。大人に対してしっかり啓発をしていかなくてはと思っています。

会長：今週末に子ども会議がありますが、そのことについてお伺いしたいです。また、具体的には何人くらいいますか。

事務局：1月12日に、9月に意見発表を受けた報告会を実施します。スポーツ、ヤングケアラー、池袋駅東口駅前広場の活用についての3つのテーマについての対応を報告します。検討の結果、実施はちょっと難しいなっていうものについては、どうしてこれが出来ないのかということの説明と、引き続き検討中のものについてはこういった検討をしておりますということを丁寧に説明する場にしたいと考えております。当日は各テーマのグループの中に、所管の課長も入って、どうしてこういった結果になったのかというところ、またその場で意見交換ができるような形で進めていきたいというふうに考えております。今年度は小中学生の25名が参加をしております。申し込みの段階では高校生もいました。

委員：総合計画への子どもの意見の反映というところで、これもまた試行錯誤のところ初めて子ども版を作成したと思うのですが、今後のための問題提起です。上がってきている自由記述や結果を見て、この総合計画に子どもの意見を反映したいという大人が聞きたい意見が聞いているのかなというところが少し気になりました。何のために意見聴取をするのか、意見を言ったらその後どうなるのか、それを事前に伝えないと、子どもは何を求められているのかわかりません。書かれている内容を見ると、それが伝わっていないのでは

ないかと感じる部分もあります。施策とは何か、というところの説明から必要だと思います。子どもになじみがあるもの、関連がありそうなものを載せたのだと思いますが、絞りすぎで、子ども向けにしすぎているように思いました。

会長：豊島区の子どもの意見の徴収という取組がこうだったということなので、この問題を本委員会としてどう評価するかだと思います。本来は、事前の関与、管理をしなければいけない重要な部分だったというふうには思います。

委員：学校で似たような取り組みはやっているの、子ども達は慣れているとは思いますが、ただ、自分の意見として実際に言えるかということについてはそのスキルをつけてあげないと、表現するところまではなかなかいきませんよね。ある程度手を加えないと正しい意見は出てこないと思います。ですので、学校にしても何にしても、助言をしながらやっていくシステム作りが課題かと思います。

委員：まさに、そのスキルを身につけさせてあげることが子どもの意見表明支援であり、学校との連携が欠かせないところだと思います。言語化が苦手な子、難しい子もいますが、そういう子たちも意見を聞かれるべきですから、言語化できるように発達していく機会を保障し、大人が子どもの力に合わせて聞いていくことが大事です。子どもの意見の尊重というのは、子どもに意見を言う能力を求めているわけではなくて、子どもが仮に言語が話せなくても、赤ちゃんから、子どもの意見というのは尊重されるべきで、理解する大人のほうに理解する力を求めているというものだから、いろいろな聞き方があっていいんだろうと思いました。

(3) 区立西池袋中学校のぶちあげ花火大会について

委員：子ども達が実行委員なので、花火に火をつけるのも、チラシを近隣に配るのも全部子ども達です。大人はスケジュールを作ったり買物や安全管理をするくらいで、当日 13 時に集まった子ども達に花火をつける順番の説明をしてさあやるぞとぶっつけ本番でやりました。今度花火をやると言ったら、彼らみんなやりまうと言って手伝ってくれました。そこに大勢の生徒と一緒にやろうと集まってきました。当日は 2,000 人くらい来ました。近隣の四つの小学校から子ども達や親子連れで来てくれて、その案内も子ども達がやりました。これを機に自分たちでやれましたよと、自信を持てたと思います。こういう主体性というのはさせないと出てこないこともあります。だから、起爆剤じゃないですけども、PTAの方々にもご支援いただきながらやれたのだと思います。

委員：当日問題や課題が見つかったことはありましたか。

委員：自然が関わることとして、風向きのために場所の変更をするなどはありましたが、子ども達が意欲的にやったことに対して問題が出たなどのことはありませんでした。運動会などですと、全て終わった後にゴミの問題とかあるのですが、今回はそういうことが一切ありませんでした、

会長：素晴らしい子ども主体の活動、広がっていくといいですね。ご報告ありがとうございました。

4. 閉会

以上をもちまして、本日の議事は全て終了しました。事務局から事務連絡をよろしくお願いいたします。